

介護と仕事「両立できる」

神奈川のNPO代表 川内さん講演

新聞
井新
政経懇話会

福井新聞政経懇話会の第487回例会は21日、福井新聞社・風の森ホールで開催された。NPO法人となりのかいご（神奈川県）の内潤代表理事が介護離職の防止をテーマに講演し、「介護サービスマンや企業の休暇制度などを活用すれば、介護と仕事は必ず両立できる」と強調。家族の介護が必要になった従業員が早期に相談できる職場の雰囲気づくりが大切と訴えた。

講演要旨は次の通り。

一、日本の高齢化は急速に進み、高齢者を支える現役世代の負担は年々増して

いる。家族だけで介護すると、孫世代がヤングケアラーになるリスクも生じる。家族だけでは介護できない時代であることを労使ともに認識すべき。

一、介護は主に▽要介護状態の発覚▽日常生活の一

部を手助け▽生活全般の手助け▽みとりーの4段階。大切なのは、全ての段階において要介護者と家族が良好な関係を保つこと。

一、家族だけで介護を抱えるべきではない。入浴や排せつなどの介護は専門職



「親不孝介護で離職を防ぐ！」と題し講演する川内さん＝21日、福井新聞社・風の森ホール（中野克規撮影）

の役割。早めに相談先を確保し、全体像の把握に努めてほしい。介護を受ける家族に愛情表現できる余裕を持つことを心掛けて。

一、仕事と介護を両立することは早い段階の相談に尽きる。家族に要介護の予兆を見つけたら、最寄りの地域包括支援センターに連絡してほしい。職場でも気軽に相談できる雰囲気づくりが大切。休暇制度を設けるだけでは不十分で、家族を介護する従業員に上司が定期的な声を掛けてほしい。介護の負担は人に話すだけでも軽減される。

一、お金をかけた介護が幸せにつながるには限らないが介護は無料ではない。離職して安定収入を失うと余裕を持った介護はできない。（高島健）